

デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生推進タイプ) 令和6年度事業評価シート

		担当課	観光課
事業名	①野遊びSDGsの推進 (三重県いなべ市、北海道芽室町との連携)		
計画期間	令和2年度から6年度		
目的	<p>本市は、秋田犬、きりたんぼ、曲げわっぱなど全国的に有名な特産物や伝統文化を有するとともに、豊かな自然、美味しい食、台風や地震などの災害が少ないといった利点も多く、自然と共生し人間らしい生活を取り戻すという価値観に裏打ちされたライフスタイルを可能にするリソースが充実しており、滞在を楽しむことができる目的地としてのポテンシャルは非常に高い。</p> <p>このリソースをうまく組み合わせ活用し、交流人口を拡大させるツールにまで磨き上げ、エリアブランディングの核として官民一体となって交流人口拡大に向けた取組みを進め、人口減少が進む中でも持続可能な地域づくりを実現する。</p>		
実施内容	<p>令和2年度に事業計画を策定後、大きく4つの事業を展開する。(令和2年度から6年度まで)</p> <p>(1)拠点開発・運営事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・拠点エリアの全体構想及びコンセプト作成(2年目) ・拠点内の施設運営方法及び運営事業者選定に向けた準備(//) ・運営事業者の選定とサービス向上のためのトレーニング実施(3年目) ・施設のWEBサイト制作開始、市内施設を活用した受入開始(3年目) ・施設運営の本格開始(4年目~) <p>(2)コンテンツ開発事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「五色湖」での水上アクティビティ等の調査・検討(2年目) ・水上アクティビティの造成及びさらなるアクティビティの調査・検討(3年目) ・各アクティビティの内容精査、改善(4年目~) <p>(3)情報発信事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野遊びSDGs事業の認知度を高めるため、市民向けイベントの開催(3年目) ・市民向けイベントの開催と、自然やアウトドアの媒体を中心としたメディア掲載開始(4年目) ・Google広告・SNS広告、インフルエンサーの招聘を通じた情報発信(5年目) <p>(4)地域連携事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連携自治体との協議会の設置、情報共有や各種の共同事業の推進 <p>●ハード整備</p> <p>田代岳エリア内の「ファミリー広場」「五色湖キャンプ場」「五色湖ロッジ」「多目的運動広場」を拠点として、ハード整備を進める。</p>		
KPI (令和6年度末目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・「野遊びSDGs」プログラムを利用した人の消費額(千円) 10,000千円 ・「野遊びSDGs」を利用した人の1回滞在当たりの客単価(千円) 200千円 ・「野遊びSDGs」による地域産業創出件数 3件 	KPIに対する成果	<ul style="list-style-type: none"> ・「野遊びSDGs」プログラムを利用した人の消費額(千円) 264千円 ・「野遊びSDGs」を利用した人の1回滞在当たりの客単価(千円) 11千円 ・「野遊びSDGs」による地域産業創出件数6件
達成度	A:達成 B:おおむね達成 C:未達成		C

(単位:千円)

令和6年度		令和7年度
総事業費	交付金額	総事業費(交付決定額)
20,000	10,000	

1. 令和6年度の取り組み等

キャンプ場の運営を担うことが見込まれていたスノーピーク社が本事業から撤退することとなり、同社による運営を想定して設計・整備を進めていたハード事業は一旦白紙となった。

一方でソフト事業については、令和4年度に作成したビジョンマップを基に、地域資源を実際にお客様に提供していくための体制づくりやコンテンツの商品化を目指した商品設計会議を継続的に実施。地域のプレーヤーを掘り起こし、観光客向けのコンテンツとして商品化を進めてきた。冬季には地域連携DMO秋田犬ツーリズムとの連携によりタイからのインセンティブツアーの受け入れに成功。前年度に実施した冬のモニターツアーによる経験と収穫を活かして、様々な雪遊びや食を堪能できる冬の野遊びフィールドを展開し、顧客に満足度の高いアクティビティコンテンツを実際に提供することができた。

また、商品化した食やコンテンツのPRやマーケティング、販路構築のため、以下の事業を実施した。

- ・全国の山村地域の特産品等を販売するイベント「山の恵みマルシェ」への参加
- ・日本最大級の国際見本市「東京インターナショナルギフトショー」への出展
- ・WebサイトとSNSの運用によるコンテンツの情報発信
- ・地域デザイナーによる商品紹介パンフレットの作成
- ・人気情報誌へのPR記事掲載

2. 今後の取り組み

フィールド(五色湖)におけるハード事業については、具体的な整備計画が白紙となったため、改めて自然を体感できるフィールドとして現実的な整備計画を検討していく方針。

五色湖エリアの通信環境については従来からの大きな課題であり、キャンプ場利用者のみならず田代岳の登山客など同エリアを利用・経由する人々からの需要が高い。今後の整備構想のあり方を問わず安定した通信環境が必要であることから、今年度はWi-Fi環境の整備に着手することとした。

また、ソフト事業については、本事業で創出された体験コンテンツや特産品は、本事業と連携してきた地域連携DMO秋田犬ツーリズムを中心に販路を開拓するなど、事業者を支援する体制を維持していく。

懇談会意見

KPI達成に有効な事業であったと いる いえない

今後、有効な事業にするために、無理のない範囲で事業を継続していただきたい。

デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生推進タイプ) 令和6年度事業評価シート

		担当課	観光課
事業名	②奥秋田サステナブルツーリズムプロジェクト ～地域の強みをサステナブルな取り組みに進化させ、稼ぐ観光へ～		
計画期間	令和4年度から8年度		
目的	国内外で環境・文化の振興を志向するすべての人々を対象に、『未来に向けて自然と暮らしを守り、活かし、つなげる。恒久なる時空を超えた、成長する・貢献する旅づくり』をコンセプトとした、北奥羽の広域的な連携による相互の発着型観光となる「旅づくりの拠点」整備と、『環境にやさしい、身体にやさしい、人にやさしい奥秋田』をコンセプトとした、「環境、産業、教育、文化、自然」などの様々な分野に当エリアの強みであるサステナブルを付加価値として新たに加えた、モノ(商品)とコト(観光)を開発し、「稼ぐ観光、豊かな暮らし」に繋げる。		
実施内容	1. エコツーリズムを核とした新たな市場開拓と稼ぐ仕組みづくり 2. 観光を活用した地域の自然・文化・経済の持続可能性向上のための態勢整備 1) 地域における持続可能性に配慮した取り組みの拡大支援 2) 修学旅行・農泊にかかる持続可能な実施基盤の確立 3) 海外留学生受け入れのためのプログラム開発、枠組みの整備		
KPI (令和6年度末目標)	・地域への経済波及効果 20,950百万円 ・教育市場(修学旅行・教育旅行・留学)収入 5,621千円 ・農家民宿関連(農泊・農業体験・きりたんぼ作り体験等)収入 3,306千円 ・来訪者の地域のサステナブルな取り組みに対する評価(5段階評価) 4.45ポイント	KPIに対する成果	・地域への経済波及効果 20,950百万円(※仮) ・教育市場(修学旅行・教育旅行・留学)収入 7,665千円 ・農家民宿関連(農泊・農業体験・きりたんぼ作り体験等)収入 3,385千円 ・来訪者の地域のサステナブルな取り組みに対する評価(5段階評価)4.16ポイント
達成度	A:達成 B:おおむね達成 C:未達成		A

(単位:千円)

令和6年度		令和7年度
総事業費	交付金額	総事業費(交付決定額)
36,062	18,031	24,244(12,122)

1. 令和6年度の取り組み等

1. エコツーリズムを核とした新たな市場開拓と稼ぐ仕組みづくり

- 潜在顧客や市場環境分析のためのマーケティング調査
 - ・秋田県と連携したデータ活用【DMP活用】
 - ・DMP活用研究会開催
 - サステナビリティを主眼とした新規来訪者獲得のためのPR戦略構築
 - ・台湾旅行博への出展によるプロモーション
 - ・外国人インフルエンサーを活用したエリアプロモーション
 - ・SNSの運用によるエリアプロモーション
 - ・Google検索連動型広告の運用
 - エコツーリズムの推進とエコツアー開発のための資源発掘・体制整備
 - ・乗合タクシーオンライン予約システム導入(森吉山周遊乗合タクシー)
 - ・「マタギトレイル」の商品化と高付加価値化に向けた協力体制の構築
 - 近隣DMOとの連携したDXプラットフォーム構築のための体制づくり
 - ・十和田八幡平国立公園を巡る各種事業における連携(八幡平DMO、十和田奥入瀬観光機構、かづのDMO)
 - 地域の持続可能性に寄与する新たな産品・サービス等の開発及び販売(文化、自然環境、地域コミュニティ、経済)
 - ・秋田犬ふれあい体験の試験的有償サービス実施
 - ・技能実習生ツアーの実施
 - ・ツアー造成視察の受け入れ(ツナガル株式会社(海外向け販売の旅行会社))
 - ・十和田湖へのHOBIE導入(アメリカ発の水上アクティビティ)
 - ・枝豆や比内地鶏等の特産品を活用した商品開発
 - ・都内商店街と地元産直を繋ぐ、産地直送型取引「ハチベジ」の展開
- ### 2. 観光を活用した地域の自然・文化・経済の持続可能性向上のための態勢整備
- 1) 来訪者アンケート・満足度調査
 - ・来訪者アンケート調査のデジタル化と分析
 - 2) 地域における自然環境に配慮した取り組みの拡大支援
 - ・コミュニティラジオを活用した住民への活動周知
 - 3) 修学旅行等・農泊にかかる持続可能な実施基盤の確立
 - ・インセンティブツアー(報奨旅行)の誘致(タイ王国の企業が来訪)
 - 4) 地元教育機関を活用した受入態勢の構築
 - ・阿仁学園と連携した商品開発と観光受入プログラムの設計

2. 今後の取り組み

KPIは概ね達成できているためこれまでの事業を継続しながら、一部事業についてはステップアップや見直しを図る。

1. エコツーリズムを核とした新たな市場開拓と稼ぐ仕組みづくり

- 潜在顧客や市場環境分析のためのマーケティング調査
 - ・秋田県や近隣DMOと連携したデータ活用・分析
 - サステナビリティを主眼とした新規来訪者獲得のためのPR戦略構築
 - ・インフルエンサーや各種メディアを活用したエリアプロモーション
 - エコツーリズムの推進とエコツアー開発のための資源発掘・体制整備
 - ・縄文・マタギ文化を基軸としたサステナビリティブランディング
 - ・「マタギロングトレイル」の商品化と高付加価値化に向けた協力体制の構築
 - 近隣DMOとの連携した受け入れ体制づくり
 - ・十和田八幡平国立公園を巡る各種事業における連携(八幡平DMO、十和田奥入瀬観光機構、かづのDMO)
 - 地域の持続可能性に寄与する新たな産品・サービス等の開発及び販売(文化、自然環境、地域コミュニティ、経済)
 - ・枝豆や比内地鶏、山菜等の特産品を活用した商品開発
- ### 2. 観光を活用した地域の自然・文化・経済の持続可能性向上のための態勢整備
- 1) 来訪者アンケート・満足度調査
 - ・来訪者調査内容の磨き上げ、分析精度の向上や外部専門家による改善に向けた事業提案
 - 2) 地域におけるサステナビリティに配慮した取り組みの拡大支援
 - ・地域の事業者や住民向けサステナビリティセミナー等の啓蒙活動
 - 3) 企業研修等の誘致と農泊の持続可能な受入基盤の確立
 - ・企業や学生向けサステナビリティ学習プログラムの確立
 - 4) 地元教育機関を活用した海外留学生受入態勢の構築
 - ・AKITA INAKA SCHOOLにおける外国人留学生の文化体験の深化
(体験だけでなく、文化や伝統の背景にある歴史や課題について考える時間をプログラム化するなど)
 - ・学校や地域住民と協同した観光コンテンツやツアーの造成と取り組みを通じた観光教育による人材育成

懇談会意見

KPI達成に有効な事業であったと いえる いえない

近隣との連携が絡んでくる。その辺を踏まえ、今後の事業の内容のなかに近隣市町村との連携をどんどん盛り込んでいければ良い。

デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生推進タイプ) 令和6年度事業評価シート

		担当課	スポーツ振興課
事業名	③スポーツコミッション大館によるスポーツツーリズムの推進と交流を生むまちづくり		
計画期間	令和4年度から8年度		
目的	スポーツイベントや地域資源を活用したスポーツツーリズムの推進、スポーツによる市民の健康増進と地域間交流を促進するとともに、大館市のスポーツへの取り組みを内外に発信し、スポーツの持つ力を活用した交流人口の拡大と地域の活性化を目指す。		
実施内容	1. 自転車を活用したスポーツツーリズム推進 2. 山田記念ロードレースサイドイベントによる観光消費額の増加 3. スポーツ実施率向上のための環境づくりとスポーツ交流の促進 4. AIカメラ及び動画共有サイト活用による情報発信とスポーツ合宿や大会の誘致		
KPI (令和6年度末目標)	・スポーツツーリズムによる誘客 6,761人 ・スポーツ合宿及びスポーツ大会等による宿泊数 1,600泊 ・友好都市との交流事業関係人口の拡大 99人 ・スポーツ実施率 50.7%	KPIに対する成果	・スポーツツーリズムによる誘客 5,744人 ・スポーツ合宿及びスポーツ大会等による宿泊数 1,846泊 ・友好都市との交流事業関係人口の拡大 120人 ・スポーツ実施率 45.3%
達成度	A:達成 B:おおむね達成 C:未達成		B

(単位:千円)

令和6年度		令和7年度
総事業費	交付金額	総事業費(交付決定額)
34,778	17,389	24,658(12,329)

1.令和6年度の取り組み等

【1】自転車を活用したスポーツツーリズム推進

1. ロードバイク1日型イベント「ハチ公きりたんぼライド」の開催
参加者:467人 4コース設定(150Km、100Km、60Km、10Km)
大館市及び近隣市町にサイクリングコースがあることを全国に周知。
2. 期間型・全国連携型イベント サイクルボール「あききたいち」の開催
参加者:316人 期間:6月24日～11月30日
サイクリングに特化した旅行支援アプリを活用。期間中に自分の日程に合わせて参加することが可能なイベント。
3. マウンテンバイクを使用したアクティビティ商品の開発
大館市野遊びSDGsプロジェクトとの連携によるアクティビティ商品の開発。
田代中学校2年生を対象に、「五色湖周辺開発に関する学習会・マウンテンバイク試乗体験」を実施。

【2】山田敬藏記念ロードレース大会サイドイベントによる観光消費額の増加

1. 大会前日のイベントによる宿泊数の増加
前日の宿泊者数:115人
2. リピーター獲得及び女性参加者増加につながる「おもてなし」の充実
「足もみマッサージ」コーナーを設置 27人が施術を受けた。
3. 飲食や物販ブースによる観光消費額の増加
大会事務局からドーム会場内で使用できる「お買物券500円」をハーフと10Km参加者に配布。
飲食出店 4店、物販出店 5店 売上額1,062,660円
4. 参加者のSNSを活用したイベント周知
ステージを記念撮影に開放、写真のSNS投稿をよびかけ。
Instagram #山田記念ロードレースで500件以上の投稿があった。
5. 渋谷表参道ウィメンズランとの連携による交流・関係人口の拡大
渋谷表参道ウィメンズランから招待選手3人、同大会の伊藤事務局長が参加。
6. ステージ設営
イベント用仮設ステージの設置、ステージ装飾バックパネル等の製作及び設置撤去
音響・照明の設置及びオペレート、ステージイベント司会の手配。
7. 飲食コーナー・展示コーナー設営
コーナーの設置及び撤去。仮設電源敷設。火気使用に関する申請。
8. ランニングクリニック・セレモニーの進行
瀬古利彦トークショー&ランニングクリニックの進行。
山田記念ロードレース大会 開会式・表彰式の進行。

【3】スポーツ実施率向上のための環境づくりと交流の促進

1. スポーツ・健康づくりの習慣化

- (1)体成分分析装置(InBody)を使用したスポーツ・健康づくりの動機づけ
測定実績 846人 測定会 26回実施
 - (2)スポーツ競技団体によるスポーツ体験会(スポーツ活動の受け皿づくり)
 - ① トランポリン体験会 参加者:160人(保護者等350人)
 - ② 相撲体験会 参加者:20人(保護者等15人)
 - ③ 剣道体験会 参加者:12人(保護者等18人)
 - ④ 体操体験会 参加者:31人(保護者等20人)、成人6人
 - ⑤ バドミントン体験会 参加者:10人
 - (3)地元インストラクターによるスポーツ・健康づくり教室(スポーツ・健康づくりの受け皿づくり)
 - ①キャンドルヨガ教室 参加者:成人12人
 - ②陸上競技教室 参加者:小学生5人
 - ③ケガ予防のためのストレッチ講習会 参加者:高校生・小学生111人 3回実施
 - ④食育講座・ピッチング講座 参加者:食育講座45人(小学生の保護者)
ピッチング講座11人(小学生)
 - ⑤フォームローラーピラティス体験会 参加者:成人31人 3回実施
 - ⑥親子ボルダリング体験会 参加者:小学生2人 保護者3人
 - (4)朝のランニング集会「グッドモーニングラン」(ランニング習慣化への取り組み)
参加者:97人 3回実施
- #### 2. スポーツ教室や講習会による競技力の向上
- (1)アランマーレ秋田 バスケットボールクリニック(トップチームの教室)
参加者:56人(小学1年生～小学6年生)
 - (2)ブラウブリッツ秋田 サッカー教室など(トップチームの教室)
 - ① サッカー教室18人(小学生)
 - ② 運動神経向上教室19人(小学生)
 - ③ 指導者講習会7人(競技指導者・保護者)
 - (3)スポーツ体験フェス(トップチームの教室)
 - ① かけっこ教室
 - ② バスケットボール教室
 - ③ サッカー教室
 - ④ ラグビー教室
 - (4)真鍋未央ランニングクリニック(著名講師の教室)
参加者:18人
 - (5)スポーツコミッション大館×ジョガスポーツカレッジ サッカークリニック(著名講師の教室)
参加者:84人
 - (6)スポーツ体験フェス こども野球教室(著名講師の教室)
参加者:ちびっこの部34人 高学年の部42人
 - (7)小林快 競歩講習合宿(アスリートとアスリートのセカンドキャリアを活用した講習会)
参加者:18人(男子13人、女子5人)
県内3人、県外15人(社会人4人、大学院生1人、大学生9人、高校生4人)

3. ボッチャを通じた健康づくりと交流の促進

- (1) 定例ボッチャ交流会「はちくんチャレンジ」
延べ参加者:332人(6回開催)
- (2) ボッチャ交流会 第5回「はちくんオープン」
参加者:50チーム 201人(渋谷カップからの招待チームを含む)
ボッチャ大会を通じた交流 提携大会
「ボッチャ ジャパンカップ2025」、「ボッチャ渋谷カップ」出場権を付与。
渋谷カップで「はちくんオープン」の出場権を付与し、相互交流実施。

【4】 AIカメラと動画共有サイトによる情報発信と合宿・大会の誘致

1. AIカメラの運用

- (1) 視聴概要(期間:4月1日～令和7年3月31日)
 - ① ページ閲覧回数 195,430 PV
 - ② 視聴者人数 39,185人(既存:19,799人 新規:19,386人)
 - ③ 視聴者男女比率 男性:58.3% 女性:41.7%
 - ④ 視聴者年代(最多) 35歳～44歳
 - ⑤ 視聴者居住地(上位3市)大館市:6,211人 札幌市:5,905人 秋田市:3,085人
※ 上記③～⑤は個人アカウントに性別・年齢・住所が登録されている者
- (2) 配信試合数 17大会 178試合
 - ① ニプロハチ公ドーム配信数 9大会 98試合
 - ② タクミアリーナ配信数 8大会 80試合
- (3) ウェブサイトバナー広告等掲載効果実証試験の実施
バナー広告スポンサー営業に必要なデータ収集、持続可能なサイト運営及びサイトの収益化を
目指した広告掲載料金の設定、スポンサー営業を行うターゲット企業選定のため実証試験を実施。
2. YouTube「スポーツチャンネル大館」の運用
動画共有サイト(YouTube)で、大館市のスポーツへの取り組みを発信し、大館市の知名度向上
スポーツのまち大館のブランディングを行う。
制作動画 9動画
3. AIカメラをセールスポイントとしたスポーツ大会・合宿の誘致
 - (1) 展示会概要
開催日:7月16日(火)～ 7月18日(木)
会場:東京ビッグサイト 東展示場
出展者数:523社(海外出展含む) 入場者数:37,611人
 - (2) スポーツコミッション大館 出展内容
 - ① スポーツイベント募集(誘致)チラシの配布
 - ② AIカメラ配信サイトの広告バナー募集(誘致)チラシの配布
 - ③ スポーツ・文化合宿等誘致促進事業リーフレットの配布
 - ④ NTTスポルティクト展示ブースでのAIカメラ導入事例発表(期間中3回)
 - (4) 誘致活動の成果
 - ① 中学生・高校生 男子バスケットボール大会の誘致(株式会社GXA)
 - ② ラグビー普及事業の誘致(日本ラグビーフットボール協会)
 - ③ サイバーボッチャ機器の無償レンタル(ミズノ株式会社)

2.今後の取り組み

事業の自走化を目指し【人材の確保と育成】【イベント・受入体制の品質向上】【事業資金の調達】【情報の収集と発信】に取り組む。

【1】自転車を活用したスポーツツーリズム推進

1. ロードバイク

- ① 持続可能な観光コンテンツとして期間型イベント定着への取り組み。
- ② 自由な日程で参加可能な期間型イベント実施による観光客の増加。
- ③ サイクリングアプリを活用したイベント開催経費の低額化。
- ④ 地域の「立ち寄り協力店」による観光消費額増加への取り組み。

2. マウンテンバイク

- ① 住民ワーキンググループ等との連携によるアクティビティ商品の開発。
- ② ビジネスモデル構築への取り組み。

3. サイクリングガイドの養成

- ① 大館市(地域)になかった仕事づくりによる地域経済の活性化への貢献。
- ② 兼業、副業人材によるサイクリングビジネス定着化への取り組み。

【2】山田記念ロードレースサイドイベントによる観光消費額の増加

- ① 前泊者数の増加を目的とした誘客力あるゲストによるレース前日イベントの実施。
- ② リピーター獲得及び女性ランナー増加のための「おもてなしイベント」の企画。
- ③ 飲食や物販ブース設置による食と製品のPRによる観光消費額の増加。
- ④ 参加者のSNSなどのネットワークを活用したイベント周知(情報発信)の仕組み構築。
- ⑤ 渋谷表参道ウィメンズランとの連携による友好都市との交流・関係人口拡大。
- ⑥ 北海道、東北圏内のマラソン大会と相互に出場権を付与するなど連携構築への取り組み。

【3】スポーツ実施率向上のための環境づくりとスポーツ交流の促進

1. スポーツ・健康づくりの習慣化

- ① 体成分分析装置(InBody)を使用した「身体状態の見える化」による動機づけ。
- ② 関係機関への市民の身体状態(InBody)データ活用への働きかけ。
- ③ 地域の競技団体及びインストラクターによる教室実施(スポーツ活動の「受け皿」づくり)
- ④ 教室実施(業務委託)による競技団体の教室運営スキル向上支援。
- ⑤ 教室実施(業務委託)による地域のインストラクター支援。
- ⑥ 地域スポーツ情報(教室・指導者・イベント)提供内容充実への取り組み。

2. スポーツ教室や講習会による競技力向上と交流の促進

- ① トップチームや著名講師の教室実施による子どものモチベーション向上を図る。
- ② 著名講師による「指導者講習会」の実施。
- ③ 現役アスリート及びアスリートのセカンドキャリアを活用した合宿型講習会の実施。
- ④ 合宿型講習会による県外選手と地元選手の交流による競技力向上への取り組み。
- ⑤ スポーツ教室、指導者講習会の有料化への取り組み。

3. ボッチャを通じた共生社会への理解と交流の促進。

- ① 日本ボッチャ協会との提携による「ボッチャのまち」シティブランドの定着。
- ② 競技普及による高齢者及び障害者のスポーツ実施率向上と共生社会への理解促進。
- ③ 定例交流会や大会による交流・関係人口の拡大。

【4】AIカメラ及び動画共有サイト活用による情報発信とスポーツ合宿や大会の誘致

1. AIカメラによるニプロハチ公ドーム及びタクミアリーナの試合配信。
 - ① スポーツ試合配信による大館発信。
 - ② 配信サイト広告スポンサー獲得への取り組み。
2. 動画共有サイトを媒体とした市民のスポーツ情報の発信と共有。
3. 合宿、イベント誘致、企業版ふるさと納税獲得を目的としたスポーツ総合展示会への出展。

懇談会意見

KPI達成に有効な事業であったと いえる いえない